

## 第34回教育学部大久保農場収穫祭のご報告

教育学部大久保農場主任 荒木 祐二 (技術教育講座)

埼玉大学教育学部大久保第1農場にて、11月14日(金)に技術教育講座の「栽培技術の基礎(実習を主とする)」受講生一同ならびに大久保農場の主催による収穫祭が行われました。本年度で34回目を迎えます。

当日はやや冷え込みましたが、大学から山口学長、齊藤理事兼副学長、佐藤監事、川又副学長、経理課の佐々木氏、西袋氏、浦田氏、教育学部から細渕学部長、桐渕先生(総教)、横尾先生(美術)、荻窪先生(技術)、戸田支援室事務長、荒井事務長代理、武藤氏、一戸氏をご参加くださいました。また、さいたま市長からメッセージを頂戴しました。



司会は技術専修1年生の吉澤君が務め、はじめに農場主任である筆者が趣旨説明を述べました。つづいて山口学長からご挨拶を賜り、「各学部の実習は人材育成の一環として定着していきたい。栽培実習を通して、予測できないことにどう対応するかという能力が身についているはず。収穫祭もいい体験になるでしょう。」というお言葉を賜りました。続いて、齊藤理事兼副学長から「今年で3回目の参加。大久保農場のますますの発展を祈念して乾杯。」というご挨拶と乾杯の音頭の下、宴会が始まりました。

歓談の合間には、細渕学部長より「実家も農家(いまは家庭菜園)。農場では土壌改良がよくやられている。作物を一からつくるのは人をつくるのと同じで、手間暇かけて育てるのは大変。そうして育てられた作物を食べられて嬉しい。」、戸田事務長から「自分の仕事でいい人材が育つことがやりがい。学生の皆さんには夢を実現してほしい。食欲に勉強してほしい。」とのご挨拶をいただきました。また、



このたびの、大久保農場「収穫祭」の御開催を心より喜び申し上げます。

本日の収穫祭が実り多き充実したものとなりますことを期待しますとともに、貴校の更なる御発展をお祈りいたします。

平成26年11月吉日

さいたま市長 清水 勇人



農場講義室内のプロジェクターを利用して、浅子技能補佐員より栽培実習のようすが上映されました。その後、受講生による余興があり、洗濯ばさみを有効活用した芸と踊りに会場は大いに盛り上がりました。最後に、全員で埼玉大学歌を斉唱し、前農場主任の石田先生による「収穫祭は深谷農場、大宮農場の頃より続いてきた。学生諸君はこれからよい指導者になって、学校の教育ファームを活用してほしい。そして日本の良さを伝えてほしい。」という中締めのご挨拶をもってお開きとなりました。

農業文化国である日本のよき伝統が、大久保農場にも確かに根付いています。この伝統を引き継ぎ、収穫祭がこれからも農場運営に携わる皆様と受講生らの交流の場になることを願っています。今後も大久保農場の活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 2014 年収穫祭を終えて

山崎 郁実 (技術専修1年生)

11月14日埼玉県民の日、毎年恒例の収穫祭が、学長をはじめ多くのご来賓の方々をお招きして盛大に行われました。技術専修の1年生が主催する収穫祭は、私たちが育てた作物を使った料理をふるまい、参加者の皆様と共に食事をするという内容です。収穫祭の目的は、今年の作物の豊作に感謝し祝うことと、私たちが行っている栽培実習の様子を知っていただくことにあります。



私にとって、収穫祭はもちろん初めての経験でした。最初はどのような内容かわからず、

技術専修の伝統行事であるということもあり、主催者側の立場に立つことに少し不安を感じていました。自分は主催する側として何をすべきなのか、どうすれば収穫祭を成功させることができるのかなど、わからないことばかりでした。収穫祭当日、私たちの仕事は会場づくりと調理から始まりました。会場づくりでは机や椅子のセッティング、飾り付け、看板の製作を行い、調理では私たちが実習で育てたダイコン、ハクサイ、コメを使ったけんちん汁やおでん、おにぎりなどを作りました。それぞれ振り分けられた役割をこなし、自分の仕事以外のことも手伝い、協力し合うことで限られた時間の中でも順調に準備を進めることができました。

収穫祭が始まると、学長のお言葉やさいたま市長のメッセージなど、普段ではなかなか聞くことのできないお話を聞くことができました。その中でも特に印象に残ったことが二つあります。一つは私たちがいつも使用している大久保農場のある地域の土壌は本来、栽培にはあまり向かないような土壌であるということです。いつも使用している農場であるため、土壌に関しては特に気にもとめず当たり前のように実習に取り組んでいましたが、このお話を聞き、年月をかけて土壌改良をし、人間の手を加えるこ

とで現在は栽培環境が整っているのであって、自分たちが実習を行えるのは当たり前のことではないのだと感じました。そして、土壌改良などの栽培技術によりどれだけ大きな変化があるのか、ということもわかりました。もう一つは、荒木先生のお話にあった、収穫祭の主役は技術専修の1年生であるということです。会場でこのお話を聞き、自分たちが主役であることを再確認しました。私たちがご来賓の方々を含め多くの出席者と共に、自分たちが育てた作物を使用した料理を食べ、楽しむことで、今年の豊作を祝い、感謝し、さらには来年の豊作を願うという収穫祭本来の目的を果たせたのではないかなと思いました。

こうして収穫祭は成功に終わりました。しかし、それは私たちの力だけでは不可能であったと思います。先生方のご指導はもちろん、栽培学研究室の先輩方をはじめとした多くの先輩方の助けがあったからこそ成し遂げられました。わからないことだらけの私たちに的確にご指導、アドバイスをしてくださったこと、また、収穫祭の裏での見えないところの作業を先輩方が行ってくくださったおかげで収穫祭は成功しました。そのことに感謝し、私自身も上の立場に立った時、そのような役割を果たせる人間になりたいと思いました。収穫祭は普通の大学生活では滅多に味わえない貴重な体験となりました。司会進行、余興も記憶に残る素晴らしいものであったと思います。収穫祭を通して得た経験をこれから活かしていきたいです。



